

このたび動物園を始めました！

はじめに

今、私たちにとって動物園とはどのような場所でしょうか。動物園の原型は古代エジプトや中国などの王侯による珍獣コレクションにあるという見方もありましたが、動物学的配慮のもとついでに運営され、一般に公開された施設という近代的動物園とは性格の異なるものとされています。

日本では現在、動物園は博物館の一種である社会教育施設とされ、博物館法で規定される趣旨に沿って運営されています。すなわち資料(生きた動物)を収集し保管し(飼育管理)、展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーションなどに資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関連する調査研究を目的としています。国際博物館会議も動物園を博物館の一つとしています。美術館と動物園は、ともに博物館であるという点で同じ仲間であると言えます。

これとはべつに、性格は異なりますが動物園と似た点のあるものとして、サーカスにおける動物の展示と動物芸があります。ここでは「猛獣ショー」や擬人化された動物たちのコミカルなパフォーマンスや、珍しさを強調した動物の紹介などが見られますが、これらは近代的な動物園では注意深く避けられている要素であると言えます。

でも、わくわくしながら動物園に向かう親子連れが期待しているものは何なのでしょう。上野動物園にパンダを見に行く子どもたちは、動物学の研究に行くのでしょうか。実は私たちは、動物園という「特別な場所」に魅力を感じているのです。それは、日常の生活空間とは区別された、一種の祝祭的空間の持つ魅力なのではないでしょうか。近代的な動物園も「楽しい」場所であることを否定している訳ではありません。楽しくなければ「レクリエーションなどに資する」こともできません。

そこで、佐久市立近代美術館では「このたび動物園を始めました」という訳です。美術館では生きた動物を展示することはできませんので、3000点の収蔵美術品の中から100人を越える作家による約150点の作品を、モチーフとなっている動物に着目して展示いたします。動物の種類は50を超えるものとなります。例えば、身近な犬、牛、馬などはそれぞれ10点前後の作品を見比べることができます。そのほか鶴、雀、カラスなど多くの鳥類、ライオン、豹、キリン、象などの哺乳動物、魚やカエルなど水辺の動物まで、絵画、彫刻、工芸に表現された多くの動物をご覧いただけます。

この「美術館の動物園」で、楽しいひとときをお過ごしください。そして、それが「美術の楽しみ」につながることを願っています。  
※作品リストの配列は、各展示室ごとに制作者名の五十音順です。

## 1. 2階 第2展示室

この展示室には、犬、猫、羊、山羊、豚などの、私たちの身近に見られる動物と、水辺の生き物である魚やカエルなどを扱った作品を展示いたしました。

これらの中でも犬は、日常的に飼育され、よく見られる動物です。「イエイヌ」とも言われ、もともと古い家畜で、人間のすむところどこにも見られ、400に及ぶ品種があります。

イヌは、その原種の野生犬が人の生活圏をうろつき、人間を同類とみなすようになった野生犬が、ときたま餌などを与える人間をリーダーに近いものと認め、また、人間が進んで餌を与えて利用するようになった時点で、イエイヌになったと考えられます。

最古のイエイヌの遺骨は、アラスカで最低2万年前と推定されるものが発見され、人類がベーリング陸橋を通してアジアから北アメリカへ移動した際、連れてきたものと考えられるため、それ以前にユーラシアか北アフリカのどこかで家畜化されたこととなります。

その原種は、アラビア南部のアラビアオオカミか、アラビア北部からインド北部まで分布するインドオオカミという説、ヨーロッパと北アメリカでも別個

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
青木 亨平	1981—	談笑する妻たち	2008	金属鑄造	80cm×112.5cm×61cm	第56回東京藝術大学卒業・修了作品展/2008.2.21-2.26・東京都美術館・大学構内・大学美術館・陳列館
稲垣 孝二	1952—	うさぎ	1982	カンヴァス・油彩	91cm×116.5cm	
小口 正二	1907—2000	遊鯉	1979	漆絵	38cm×45.5cm	
奥村 土牛	1889—1990	柴犬	1985	紙本彩色	38cm×46.3cm	
奥村 土牛	1889—1990	羊	1979	紙本彩色	46cm×55.1cm	
加藤 栄三	1906—1972	仔うさぎ	(不詳)	紙本彩色	128.3cm×42.8cm	
北村 西望	1884—1987	猫	1926	ブロンズ	高さ93.5cm	
神津 港人	1889—1978	郷里志賀川の新緑	1951	カンヴァス・油彩	37.9cm×45.5cm	
小松 均	1902—1989	池中曼荼羅	1938	紙本彩色	172.5cm×378.6cm	第2回墨人会展
今野 忠一	1915—2006	猫(素描)	1940	紙本墨画	31.8cm×40.9cm	
下田 義寛	1940—	遠い風	1975	紙本彩色	53cm×72.8cm	
下山 直紀	1972—	衝動と反動のぐりかえしのなかで	2007	木芯乾漆・一本造り(台座除く)	90cm×60cm×230cm	第92回二科展/2007.9.5-9.17・国立新美術館
高越 甚	1931—	池の唄	1972	紙本着色	162cm×112cm	
滝 純一	1944—	風の道標	1995	カンヴァス・油彩	200cm×330cm	
玉川 信一	1954—	震える風景	1993	カンヴァス・油彩・銀箔・鉛板	193.9cm×259.1cm	第47回二紀展/1993.10.16-10.31・東京都美術館
玉川 信一	1954—	Rの休日	1993	カンヴァス・油彩・銀箔・鉛板	162.5cm×196cm	
時田 直善	1907—2000	悠泳	1985	紙本彩色	147cm×197.5cm	
富取 風堂	1892—1983	鯉魚	1965	紙本着色	41cm×53.1cm	
富永 直樹	1913—2006	猫	1968	ブロンズ	高さ50.0cm	
中島 権吾	1895—1982	河童嬉遊	1970	紙本墨画淡彩	96cm×180cm	
中村 玲方	1898—1980	遊鯉	1969	紙本着色	53cm×40.9cm	
中村 玲方	1898—1980	うさぎ	1976	紙本墨画淡彩	55cm×76cm	
奈良岡 正夫	1903—2004	山羊	1974	油彩・カンヴァス	112.1cm×162.1cm	
西 常雄	1911—2011	ヨークシャー種の孕める牝豚	1962	ブロンズ	高さ20.5cm	
西内 利夫	1932—1981	豆と猫	1973	紙本着色	130.5cm×162.5cm	山種美術館賞展2回今日の日本画/1973.1.04-2.25・山種美術館
西内 利夫	1932—1981	鯉	1979	紙本彩色	160cm×131.3cm	山種美術館賞展5回今日の日本画/1979.2.3-3.25・山種美術館
西村 龍介	1920—2005	春の庭	1976	油彩・カンヴァス	50cm×65.2cm	
野村 正三郎	1904—1991	猫と月	1986	板・カシュー漆	45cm×38cm	
野村 正三郎	1904—1991	牧場	1982	板・カシュー漆	73cm×91cm	
野村 正三郎	1904—1991	山羊	1963	板・カシュー漆	152cm×92cm	
野村 正三郎	1904—1991	山羊遊ぶ	1980	板・カシュー漆	65cm×53cm	
藤井 康夫	1939—	静かな午後	1985	紙本彩色	216cm×170cm	第70回日本美術展展/1985.9.8-9.25・東京都美術館

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横×高×幅×奥行)	出展
船水 徳雄	1949—	猫	(不詳)	紙本彩色	52.5cm×45cm	
丸木 位里	1901—1995	猫	1974	紙本墨彩	40.9cm×31.8cm	
皆川 月華	1892—1987	南海	1977	染色	175cm×120cm	第9回日展/1977.10.30—11.26・東京都美術館
森 白甫	1898—1980	群	1976	紙本彩色	185.3cm×130.6cm	第8回日展/1976.10.30—11.26・東京都美術館
森 白甫	1898—1980	游鯉	1973	紙本着色	53cm×40.9cm	
山口 景泉	1919—	和合ノ図	1967	紙本彩色	31cm×40cm×2面	
山崎 覚太郎	1899—1984	錦秋	1976	漆絵	46cm×53cm	
山本 丘人	1900—1986	仔犬と菜の花	1982	紙本彩色	38.3cm×45.8cm	
吉野 辰海	1940—	双頭犬	(不詳)	繊維強化プラスチック	高さ191.5cm	
分部 順治	1911—1995	慈愛	1979	ブロンズ	高さ72.0cm	

## 2. 2階 第3展示室

この展示室と、この上の階の展示室の一部には、鳥をモチーフとした作品を展示いたしました。今回の展覧会のため、当館の所蔵作品の中から動物を扱った作品を選び出したところ、鳥に関する作品が一番多く、一室の展示には収まりませんでした。これは題材としての鳥の魅力の大きさを、物語っているものと思われまます。

これら多くの鳥のなかで、カラスは、全身黒色の羽毛や、大きな鳴声、鋭い眼光などの特徴が、神秘的な印象を与える鳥ではないでしょうか。カラスは、スズメ目カラス科カラス属の鳥の総称で、日本には、各地で繁殖しているハシボソガラスとハシブトガラスがいます。また、ミヤマガラスとコクマルガラスが九州に、ワタリガラスが北海道に、いずれも冬鳥として渡来します。

カラスは雑食性で人里近くにも住み、人間との接触も多かったことから、古来いろいろな俗信や風習が生まれました。その姿や鳴き声から、一般には不吉不祥の鳥と考えられましたが、逆に吉祥幸運の鳥、あるいは日本の八咫鳥(ヤタガラス)や北欧神話の主神オーディンに仕える2羽のカラスのように、神の使者とされることもあったようです。

八咫鳥は、記紀の神武天皇東征譚にあらわれる鳥で、神武天皇の軍が熊野、吉野を越えて大和へ入ろうとすると、ヤタガラスが天照大神(「古

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横×高×幅×奥行)	出展
石垣 定哉	1947—	インコ	1998	紙・アクリル絵具	193cm×136cm	
石本 正	1920—	鶏	1960	紙本彩色	91.6cm×117.5cm	
入江 西一郎	1921—	月の夜	1968	紙本彩色	90cm×117.5cm	第3回日春展/1968.4.5—4.17・東京銀座松屋
岩田 正己	1893—1988	新苑の花	1976	紙本彩色	52.8cm×41.3cm	
上村 淳之	1933—	秋鶴Ⅰ	1973	紙本彩色	203.2cm×143cm	第37回新制作協会展/1973.9.22—10.10・東京都美術館
上村 淳之	1933—	秋鶴Ⅱ	1973	紙本彩色	203.2cm×143cm	第37回新制作協会展/1973.9.22—10.10・東京都美術館
大内田 茂士	1913—1994	梟	1988	カンヴァス・油彩	136.8cm×121.4cm	第41回示現会展/1988.4.6—4.21・東京都美術館
大山 忠作	1922—2009	日輪翔鶴	2008	紙本彩色	90.9cm×72.7cm	
岡 左久良	1938—	白鷺椿刻文陶額	1989	磁器	87.5cm×116.6cm	
金島 桂華	1892—1974	紅梅小禽	1970	紙本彩色	32cm×51.3cm	
河口 栄土	1898—1991	鷺	1985	紙本彩色	192.9cm×129cm	
川崎 小虎	1886—1977	慈	(不詳)	紙本墨彩	28.6cm×44.2cm	
木内 晴岳	1917—	鎌倉彫 鷺と菖蒲	1982	木彫(桂材)	65cm×180cm	
清原 啓一	1927—2008	紅庭の遊鶏	1987	カンヴァス・油彩	130.2cm×193.9cm	第19回日展/1987.11.2—11.24・東京都美術館
工藤 甲人	1915—2011	野末をゆく鳥	2003	紙本彩色	130.3cm×162cm	第30回創画会/2003
今野 忠一	1915—2006	小禽(写生)	1940	紙本淡彩	31.8cm×40.9cm	
佐藤朝山(玄々)	1888—1963	巢鷄	(不詳)	木彫	18.0cm×18.0cm×21.0cm	
佐野 芳香	1928—2001	寂	1995	油彩・カンヴァス	130cm×89.4cm	
高山 辰雄	1912—2007	明けゆく(薩摩鷄)	1986	絹本彩色	116cm×87.7cm	
帖佐 美行	1915—2002	星夜の話	1972	金工	45.5cm×37.9cm	
堂本 印象	1891—1975	松上喜雀	(不詳)	紙本墨画淡彩	50.2cm×59.7cm	
常盤 大空	1913—1983	瑞鳥	1965	麻本着色	144.7cm×71.7cm	
中村 徹	1952—	貌	1994	紙本彩色	160cm×160cm×2枚	
西村 龍介	1920—2005	鳥と花	1960	油彩・カンヴァス	100cm×105cm	
野崎 貢	1916—2001	春光	1975	紙本彩色	130.5cm×162.2cm	第2回創画会展/1975.10.12—10.30・東京都美術館
野崎 貢	1916—2001	月秋	1970	紙本彩色	182cm×227.5cm	
橋本 明治	1904—1991	トレドの丘	1964	紙本彩色	94.7cm×65.3cm	橋本明治展/1964.5・高島屋(日本橋)
番浦 有爾	1935—	鳥	1974	樹脂	高さ71cm	
福井 江太郎	1969—	歩	2000	紙本彩色	各180.0cm×91.5cm×6枚	福井江太郎展/2000.6.23—7.2・ギャラリーイセヨシ
藤本 能道	1919—1992	草白軸軸描加彩翡翠図六角大筥	(不詳)	磁器	7.5cm×32.5cm×36.0cm	
不破 章	1901—1979	台北の農家	1978	水彩・紙	97cm×130.3cm	
牧 進	1936—	タレちゃん(写生)	1997	紙・水彩	48.2cm×69cm	
松樹 路人	1927—	コタン・クル・カムイの来訪	2005	カンヴァス・油彩	116.6cm×91cm	第27回十果会展/2005・高島屋(日本橋)
丸谷 端堂	1900—1984	みみずく	(不詳)	鍍金・黄銅	高さ30.8cm	
丸谷 端堂	1900—1984	しらすぎ	(不詳)	鍍金・白銅	高さ28cm	
柳原 義達	1910—2004	道標	1972	ブロンズ	高さ38.0cm	
山内 一生	1929—	涼	(不詳)	小原工芸紙(和紙)	26.2cm×23.2cm	
山本 丘人	1900—1986	とり	1981	紙本着色	41.1cm×54.5cm	
山本 真也	1946—	風	(不詳)	紙本着色	90cm×100cm	第35回春の院展/1980.3.25—4.6・三越(日本橋)
山本 倉丘	1893—1993	爽涼	1971	紙本着色	45.8cm×60.8cm	
山本 倉丘	1893—1993	静晨	1973	紙本着色	33.5cm×45.4cm	
横山 一夢	1911—2000	瑞兆	(不詳)	木芸	46.3cm×56cm	
吉岡 堅二	1906—1990	翔	1986	紙本彩色	151cm×273.3cm	第13回創画展/1986.10.16—10.31・東京都美術館
吉岡 堅二	1906—1990	飛翔	1973	紙本着色	41.5cm×53.6cm	

### 3. 3階 第4展示室

この展示室には、下の階からの続きとしてカラス、七面鳥、キジなどの鳥を扱った作品を展示し、さらに、狐や駱駝のほか、多くの牛と馬を扱った作品を展示いたしました。

牛も馬も、家畜として飼育されていますが、特に牛は、野生種に比べ、人の管理下で繁殖した家畜品種が圧倒的割合を占めている数少ない動物種の一つであると、言われています。ウシは、偶蹄目ウシ科の哺乳類です。世界各地で乳用、肉用、役用などに飼われる家畜牛(イエウシ)で、ヨーロッパ系とアジア系(コブウシ系)があります。イエウシは角の横断面がほぼ円形になる点で、それが三角形や楕円形などのスイギュウ属や他のウシ属と異なります。

牛は貴人の車を引き庶民の常用でもありともにも仏教でも尊ばれたので、日本の民俗では神仏の乗物ともされて尊敬されました。祭りに飾られて使用され、とくに田植の儀礼にはすきを引いて呪術的なシロカキをするため用いられ、また闘牛競技も本来は地域における農作の豊凶を占う意味がありました。ウマは、奇蹄目ウマ科ウマ属の哺乳類です。日本語のウマは蒙古語のモリンに由来すると言われています。馬の場合には、牛、羊と比較して、その乳、肉を食用とする地域ははるかに狭く、その代わりに、軍事上の利用を中心にその能力が開発されました。馬は武将とともに一

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横×高×幅×奥行)	出展
青木 大乘	1891—1979	野牛	1974	紙本彩色	57.3cm×84.6cm	
池上 秀敏	1874—1944	柳鶴	(不詳)	絹本墨画淡彩	81.7cm×30.2cm	
伊藤 継郎	1907—1994	子供・馬・にわとり	1974	カンヴァス・油彩	116.7cm×116.7cm	第38回新制作協会展/1974.9.22-10.10・東京都美術館
井上 俊郎	1924—	馬と少女(モンゴル)	1993	カンヴァス・油彩	162cm×194cm	第29回主体展/1993.9.1-9.16・東京都美術館
井上 俊郎	1924—	モンゴルの野	1995	カンヴァス・油彩	130.3cm×194cm	
大内 青圃	1898—1981	牧神	1978	ブロンズ	高さ44.0cm	
岡村 桂三郎	1958—	聖牛	(不詳)	ミクストメディア	61.5cm×69cm	
奥村 土牛	1889—1990	三彩馬	1978	紙本彩色	46cm×55.2cm	
加山 又造	1927—2004	野牛	1953	麻布彩色	130.3cm×162cm	第17回新制作協会展/1954.9.21-10.7・東京都美術館
川崎 小虎	1886—1977	七面鳥	1938	紙本彩色	各174.0cm×83.5cm×2隻	
北野 治男	1946—	暮鴉	1981	紙本彩色	199.2cm×199.2cm	第13回日展/1981.10.27-11.21・東京都美術館
古賀 忠雄	1903—1979	戯れ	1970	ブロンズ	高さ21.0cm	
小松 均	1902—1989	神牛	1970	紙本彩色	63.5cm×89cm	
櫻井 かえで	1974—	ウマクラ	2008	木	28cm×60cm×35cm	個展 櫻井かえで展/2009.1.26-2.7・ギャラリーせいほう(銀座)
櫻井 かえで	1974—	ウシーツ	2008	木	33cm×55cm×40cm	個展 櫻井かえで展/2009.1.26-2.7・ギャラリーせいほう(銀座)
桜井 寛	1931—	走る牛	1963	カンヴァス・油彩	130cm×162.1cm	第2回独立選抜展/1963.5.17-5.23・東京都美術館
澤田 志功	1965—	black note 一黙一	2008	彫刻	55cm×35cm×35cm	澤田志功展-black note-/2008.7.16-8.5・高島屋(日本橋)
直原 玉青	1904—2005	駱駝群(シルクロード)	1986	紙本彩色	177cm×396cm	
鈴木 公人	1928—	双麗	1986	絹本彩色	125cm×175cm	
鈴木 公人	1928—	翔	1990	紙本彩色	124.4cm×172.1cm	
鈴木 公人	1928—	餃野	1991	紙本彩色	152.6cm×332.2cm	
須田 寿	1906—2005	梅と牛	1996	油彩・カンヴァス	112cm×145.3cm	
常盤 大空	1913—1983	馬	1963	絹本彩色	49cm×50cm	
富田 溪仙	1879—1936	雁景図	(不詳)	紙本墨画淡彩	132.8cm×30.5cm	
中堂 憲一	1921—1991	曼珠沙華	1981	染色	168.5cm×164.5cm	第13回日展/1981.10.27-11.21・東京都美術館
中根 寛	1925—	こずえ	1968	キャンバス・油彩	97cm×130.3cm	
中村 玲方	1898—1980	牛	1967	紙本墨画淡彩	89cm×117.5cm	
能島 和明	1944—	ある朝	1980	紙本彩色	229cm×152cm	第12回日展/1980.11.2-11.26・東京都美術館
野村 正三郎	1904—1991	牧場	(不詳)	板・カシュー漆	60.5cm×72.5cm	
堀越 保二	1939—	此岸落鳥	1970	紙本彩色	161.8cm×122cm	今日の日本画(1回山種美術館賞展)/1971.1.4-3.28・山種美術館
松尾 敏男	1926—	洪水	1972	紙本彩色	174.5cm×235cm	第57回日本美術院展/1972.9.1-9.20・東京都美術館
松尾 敏男	1926—	牛	1971	紙本彩色	41cm×53.3cm	
柳原 義達	1910—2004	鴉	1985	ブロンズ	高さ28.0cm	第13回帝国美術院美術展覧会/1932.10.16-11.20・東京府美術館
山口 華揚	1899—1984	素秋	1932	紙本彩色	169.6cm×96.8cm×2扇	
山崎 啓次	1937—	馬	1979	紙本着色	228.5cm×156.2cm	第11回日展/1968.11.1-12.10・東京都美術館
米陀 寛	1917—2005	得牛	1980	紙本彩色	145cm×210cm	第12回日展/1980.11.2-11.26・東京都美術館
分部 順治	1911—1995	仔馬	1986	ブロンズ	高さ99.0cm	第16回日彫展/1986.4.6-4.20・東京都美術館
渡辺 省亭	1851—1918	鶴鹿図	(不詳)	絹本墨画淡彩	各122.7cm×41.5cm	
渡辺 省亭	1851—1918	桜に雉子の図	(不詳)	絹本彩色	119.5cm×40.5cm	
伊藤 彬	1940—	月宮	1982	紙本彩色	115.8cm×76.7cm	先生と弟子展/1982・

### 4. 3階 第5展示室

この展示室には、猿、リス、鹿、虎、シマウマ、象、ライオン、ヒョウ、キリン、熊、カバ、バクなど、ふだん私たちの身の回りでは見る機会の少ない動物を扱った作品を集めて展示いたしました。

なかでも猿は、ヒトにもっとも近縁な動物で、ヒトとともに哺乳綱霊長目に属しています。サルがヒトと似ているというイメージは、顔の前面に並んだ両眼、あまり突出していないあご、大きな頭、物を握ることのできる手、人のような平づめ、雑食に適した歯などという形態上の特徴に基づいています。サルは多くは樹上で生活しています。サルは樹上に生活の場を得てサルとして完成されたのち、あるものは再び地上に向かいました。とくにヒトの祖先は、この地上生活への再適応を直立二足歩行という新たな移動様式の獲得によって成し遂げたと考えることができ、このような視点からサル類の移動様式(ロコモーション)の進化とヒトの直立二足歩行の起源が研究されています。

猿が多く生息したアフリカ、インド、中国などでは古代から猿が神聖視され、猿に関する伝説も多く、仏典にも聖なる猿の話が見られます。中国では、テナガザルの系統を猿(えん)、オナガザルの系統を猴(こう)と呼び、猿猴(えんこう)は猿の総称となっています。仏教における僧団の規則である僧祇律に、猿が水に映る月を取ろうとして溺死したように、身の程を知らぬ望みを持つと失敗するという「猿猴捉月(えんこうそくげつ)」の説話があ

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横×高×幅×奥行)	出展
伊藤 三喜庵	1914—1996	猛虎の訓	1984	紙本彩色	198cm×98cm	第24回日本南画院展/1984・
江守 若菜	1923—	飼はれたる豹	1999	紙本彩色	160cm×210cm	第31回日展/1999.11.2-11.24・東京都美術館
江守 若菜	1923—	対	1997	紙本彩色	160.5cm×210.5cm	第29回日展/1997.11.2-11.24・東京都美術館
大嶋 仁美	1983—	表象	2009	紙本彩色	91cm×116.7cm	第14回新生展/2010.8.25-9.4・新生堂画廊

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
小川 瑞葉	1989—	蛇	2010	紙本彩色	72.7cm×100cm	第15回新生展/2011.8.24-9.3・新生堂
奥村 土牛	1889—1990	猿	1980	色紙・鉛筆・彩色	27.3cm×24.3cm	
堅山 南風	1887—1980	柘榴栗鼠	(不詳)	絹本彩色	137cm×51.2cm	
酒井 恒太	1985—	Beautiful Loser	2009	テラコッタ・手捻り	12cm×32cm×29cm	第14回新生展/2010.8.25-9.4・新生堂画廊
櫻井 かえで	1974—	ヒグマツレス	2008	木	40cm×30cm×39cm	個展 櫻井かえで展/2009.1.26-2.7・ギャラリーせいほう(銀座)
櫻井 かえで	1974—	マクラカパー	2008	木	29cm×35cm×40cm	個展 櫻井かえで展/2009.1.26-2.7・ギャラリーせいほう(銀座)
櫻井 かえで	1974—	カバと水(じょうろ)	2011	木彫	29cm×88cm×22cm	「夏とひつじと」展/2011・ギャラリーせいほう(銀座)
櫻井 かえで	1974—	カバと水(かば)	2011	木彫	44cm×57cm×30cm	「夏とひつじと」展/2011・ギャラリーせいほう(銀座)
下田 義寛	1940—	花の時	1975	紙本彩色	145cm×72cm	第30回春の院展/1975.4.1-4.6・三越(日本橋)
帖佐 美行	1915—2002	若温想	(不詳)	彫金	24.5cm×33.5cm	
藤井 康夫	1939—	ピエロと竊馬	2000	紙本彩色	143cm×73.3cm	第55回春の院展/2000.3.28-4.09・三越(日本橋)
船水 徳雄	1949—	塊	1983	紙本彩色	159.7cm×209.5cm	第15回日展/1983.10.27-11.20・東京都美術館
松樹 樹人	1927—	古典風な女	1977	油彩・カンヴァス	130.3cm×130.3cm	
武者小路 実篤	1885—1976	躍進	1960	絹本墨書淡彩	114.7cm×41.9cm	
山岡 紀文	1979—	真夜中の君へ	2008	木彫彩色	27cm×45cm×14cm	第13回新生展/2009.10.14-10.24・新生堂画廊
山口 華揚	1899—1984	猿	1980	紙本彩色	47.7cm×54.1cm	
山本 丘人	1900—1986	月明	1980	紙本彩色	33.5cm×45.7cm	
山元 春拳	1872—1933	薔薇と狗	(不詳)	紙本彩色	各166.5cm×371cm	
吉岡 堅二	1906—1990	母子鹿	(不詳)	絹本彩色	127.8cm×41.7cm	
淀井 敏夫	1911—2005	キリンの仔	1974	ブロンズ	高さ24.0cm	

※解説文は、「世界大百科事典 第2版」(株式会社日立システムアンドサービス)を参考に作成しました。

## 収蔵作品展示

### 1階 第1展示室

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
平山 郁夫	1930—2009	天山南路(夜)	1960	紙本彩色	164cm×222.6cm	第45回日本美術院展/1960.9.1-9.20・東京都美術館
平山 郁夫	1930—2009	原始の眠	1964	紙本彩色	133.4cm×69.7cm	第19回日本美術院春季展/1964.3.31-4.5・三越(日本橋)
平山 郁夫	1930—2009	朝の富士山	1972	紙本彩色	53.3cm×73.1cm	
平山 郁夫	1930—2009	大仏殿の夜	1973	紙本彩色	50.3cm×65.5cm	
平山 郁夫	1930—2009	飛鳥の春	1974	紙本彩色	50.3cm×65.5cm	
平山 郁夫	1930—2009	ギョレメの岩山	1976	紙本彩色	65cm×98cm	
平山 郁夫	1930—2009	善光寺	1985	紙本彩色	72.7cm×90.9cm	善光寺御開帳記念平山郁夫展/1985.4.20-5.19・信濃美術
平山 郁夫	1930—2009	日光東照宮	1989	紙本彩色	99.7cm×65cm	日本の美展

### 1階 特別展示室

中国陶磁器(告沢三郎コレクション) 別紙目録をご覧ください。(目録は中国陶磁器展示室にございます。)

### 1階 エントランスホール・ロビー

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
池田 満寿夫	1934—1997	佐久讃歌	1990	陶壁画	400.5cm×370.5cm	
北村 西望	1884—1987	花吹雪	1969	ブロンズ	高さ57cm	
鷺見 和紀郎	1950—	ヴェーロIII (セロアス・モンクに捧ぐ)	1994	アルミニウム鑄造	140cm×268cm×134cm	THE VEIL/1994. 6. 13-7. 16・ギャラリーところ

### 1階～3階 階段室

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
植木 力	1913—2003	浴後	1973	ブロンズ	高さ92cm	
三坂 耿一郎	1908—1995	女童	1974	ブロンズ	高さ120cm	第6回日展/1974.11.1-12.6・東京都美術館

### 2階 ロビー

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
楠部 彌弐	1897—1984	軸裏紅魚文	1973	磁器	高さ31cm	
棚沢 順	1958—	(習作)	1981頃	紙・ペン	16cm×8.8cm	
棚沢 順	1958—	祝	1988	紙・エッチング	15cm×23.2cm	
棚沢 順	1958—	(習作)	(不詳)	紙(専用紙)・印刷	19.9cm×16cm	
野澤 武美	1905—1954	(林 風景)	(不詳)	油彩・カンヴァス	45cm×37.5cm	
比田井 南谷	1912—1999	想	(不詳)	紙本墨書	16.8cm×23cm	
比田井 希仁	1921—2005	風景的ドローイング	1984	合板・油彩	91.3cm×91.3cm	
源川 雪	1909—1985	(花の頃)	1980	油彩・カンヴァス	22.2cm×27.5cm	
源川 雪	1909—1985	(川辺)	(不詳)	油彩・カンヴァス	22.2cm×27.3cm	
安原 喜明	1906—1980	花挿罫器線彫文	1975	罫器	高さ30cm	

### 3階 ロビー

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
斎藤 悦子	1928—1999	翔ける	1976	木・布・鉄ほか	62cm×58.5cm×13cm	第8回日展10.30-11.26東京都美術館

### 野外(館周辺)

制作者名	生没年	作品名	制作年	材質・技法	寸法(縦×横・高×幅×奥行)	出展
竹内 淑浩	1958—	雨のつきやま	1993	佐久大理石	高さ193.5cm	第5回長野県佐久大理石彫刻家シンポジウム/1993.7.22-8.31・佐久市駒場公園
田辺 光彰	1939—	さく	1982	ステンレス・佐久石	高さ4000cm	
西村 貞雄	1942—	風一奏でる	1991	佐久大理石	高さ305.0cm	第3回長野県佐久大理石彫刻家シンポジウム/1991.7.22-9.2・小海町松原湖高原
榎 涉	1949—	時間(とき)の箱	1992	佐久大理石	高さ100.0cm	第4回長野県佐久大理石彫刻家シンポジウム/1992.7.22-9.2・御代田町雪窓公園